



学会報告

“The 14th Asia Epigenome Meeting”

石原 弘喜

(国立がん研究センター研究所エピゲノム解析分野・東京女子医科大学泌尿器科)

2019年10月16日から18日に、台湾台北市で開催された The 14th Asia Epigenome Meeting (AEM) に参加しました。本会はアジア諸国のエピジェネティクス研究者間のネットワークを広げることを一つの目的として運営されており、毎年各国の持ち回りによって年會が開催されています。

今回は Li-Jung Juan (台湾中央研究院) 大会長の下、Abcam Epigenetics Conference と 3rd Taipei Epigenetics and Chromatin Meeting (TECM) の共催として開催されました。3日間にわたり、約40題の口演と約80題のポスター発表が行われました。AEMのメンバーに加え、台湾国内を中心に多くの若手研究者が参加されていました。日本からも我々の研究室の他、名古屋大、慶応大、東北大、国立成育医療研究センターの研究者が参加されていました。私は、腎細胞がん、特に透析患者のみに発症する稀な病理組織型を呈する腎細胞がんの網羅的ゲノム・エピゲノム解析に関してポスター発表する機会を得ることが出来ました。

発表内容は植物からヒト、細胞分化や遺伝子疾患・がん研究、解析手法も DNA メチル化・ヒストン修飾・non-coding RNA・シングルセル解析・インフォマティクスと多岐にわたる分野が網羅されていました。また、欧米を中心にそうそうたる研究者による発表がありました。その一つとして、Tony Kouzarides 博士 (University of Cambridge) は、独自の手法を用いた mRNA・non-coding RNA における RNA 修飾機構の解明、および CRISPR 法を用いた白血病における RNA 修飾酵素の同定について示されました (Nature, 2017; Mol Cell, 2019)。また、Bing Zhu 博士 (中国科学院) は、DNA 複製と共役する場合の維持 DNA メチル化制御機構と共役しない場合の制御機構の違い、およびこの異なる制御機構間の相互作用の解明について示されました。さらに、主催地である台湾の研究チームからも多くの発表がありました。Zee-Fen Chang 博士 (国立台

湾大) は DNMT3b 不活化とゲノム不安定性の関係について、Muh-Hwa Yang 博士 (国立陽明大) は Snail のアセチル化と EMT の関係について (Nat Cell Biol, 2019)、Jun-An Chen 博士 (台湾中央研究院) は motor neuron の多様化と non-coding RNA の関係について示されました (Elife, 2018)。

本学会は、私にとって初めて参加した基礎研究の国際学会でした。臨床医である私にとって、臨床の場では経験できない多くのことを体験できました。一つ一つの質の高い研究内容はもちろん、研究に対する高いモチベーション、熱いディスカッション、そしてシンプルかつ内容を正確に伝えるプレゼンテーションの技術など、多くのことが新鮮であり非常に勉強になりました。

学会内外で台湾の研究者の方々と話す機会も得ました。Michel Chan 先生 (国立中正大) のご招待で、台湾の有名観光スポットである台北 101 内の中華レストランにて小籠包を満喫することが出来ました。私よりも若い先生方がトラベルグラントを取得し積極的に海外発表を行っている話などを聞き、大変刺激になりました。

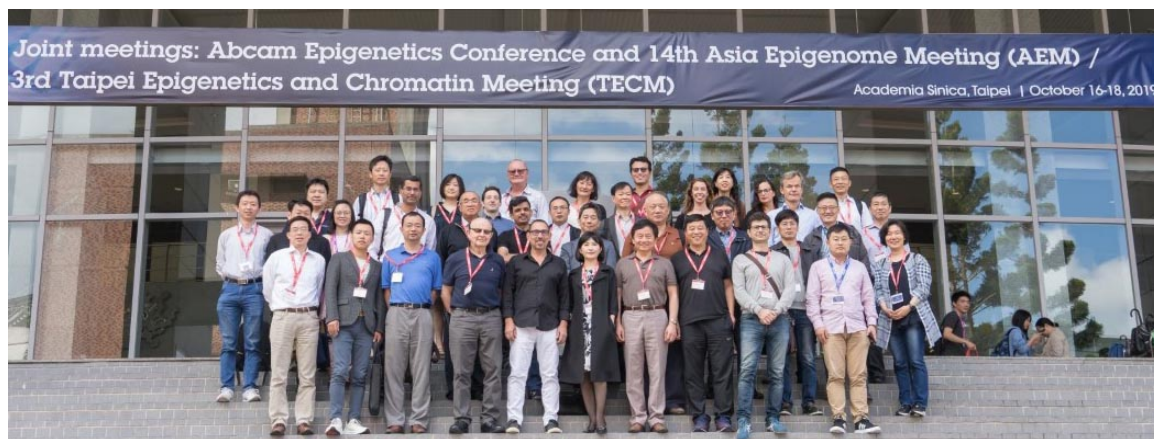


台北 101 内のレストランにて。Chan 先生 (中央奥) とラボのメンバー、名大と国がんのラボのメンバーと。筆者は左 2 番目。



今回の AEM はシンガポールにて Shyam Prabhakar 先生 (Genome Institute of Singapore) が主催されます。今学会では貴重な経験を数多くす

ることができ、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。次回も機会があれば是非とも参加したいと思いをします。



求人情報 (群馬大学 生体調節研究所)

群馬大学生体調節研究所代謝エピジェネティクス分野 (稲垣毅研究室) において、准教授または講師を募集しております。

私どもの研究室は、エネルギー代謝や環境が体細胞に記憶されるエピゲノム機構の解明を目指しています。ヒストンのメチル化修飾を中心として、各種のヒストン修飾、DNA メチル化修飾、RNA メチル化修飾を対象とし、おもに脂肪細胞分化系を用いた研究を行っております。今回の公募では、NGS 解析・エピゲノム解析の経験があるかもしくは新規に始めることができる若手研究者で、将来的に PI として次世代の研究を担っていかれる方の参画を希望しております。なにぶん小さな研究室のため、採用された方には研究内容を合わせていただき、ラボ

メンバーが皆で協力して進める形を取りたいと考えております。締め切りは 2019 年 12 月 25 日です。

詳細に関しましては、エピジェネティクス研究会 HP の求人情報のサイトをご参照いただけますと幸いです。もし候補者になりうる方がいらっしゃいましたら、応募をご考慮いただけますと幸いです。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

稲垣 毅
群馬大学 生体調節研究所
代謝エピジェネティクス分野
E-mail: inagaki[at]gunma-u.ac.jp

情報を求めています！！

研究員・ポストドク募集および他の研究会のお知らせなど、ニュースレターを利用して公開してみませんか。年会に関するご意見・ご感想もよろしく願いいたします。お近くの広報委員に気軽に e-mail ください。

(代表) 中山潤一 (jnakayam@nibb.ac.jp)
佐渡敬 (tsado@nara.kindai.ac.jp)
木下哲 (tkinoshi@yokohama-cu.ac.jp)
大川恭行 (yohkawa@bioreg.kyushu-u.ac.jp)
近藤豊 (ykondo@med.nagoya-u.ac.jp)

日本エピジェネティクス研究会事務局

佐賀大学医学部 分子生命科学講座
分子遺伝学・エピジェネティクス分野内
庶務担当幹事: 副島英伸
担当: 八木ひとみ

住所: 〒849-8501 佐賀県佐賀市鍋島5-1-1
TEL: 0952-34-2262
E-mail: jse-jimukyoku@ml.cc.sags-u.ac.jp